

倶多楽火山

○大正地獄の熱泥水噴騰活動

2009年2月5日に起こった沼端から約10mの範囲にわたって細かい土砂を放出した噴騰活動以降、穏やかな噴騰が続いていたが、7月中旬頃から振幅の大きな地動を伴う噴騰が発生し始め、沼縁から約3mの位置にある展望台(水面から約5m)にまで熱水が達するようになった。

7月末になると噴騰活動は更に激しくなり、8月4日の噴騰では高さ20m前後の水柱や、噴出した熱水が展望台に至る遊歩道を通る様子が見られた(写真1)。

7月中旬以降の噴騰に伴う地動振幅は、それ以前に比べて倍増し、8月になると更に大きくなった。同時に、約4日間隔で繰り返される噴騰とともに次第に大きくなっていった(図1)。

この傾向は9月上旬も続いたが、9月11日の活動をピークに地動振幅は減少に転じ、急速に小さくなり始め、現在は熱泥噴騰および地動振幅とも7月中旬以前の状態に戻りつつあるように見える。

今回の活動の激しい熱泥の噴出と流下によって、流出口付近および熱泥の噴出方向にあたる展望台付近の地形浸食が進んだ。



写真1. 2009年8月4日に起こった熱泥噴騰の様子(16時14分頃). 提供: 登別市



写真2. 遊歩道を通る熱水(15時52分頃). 提供: 登別市

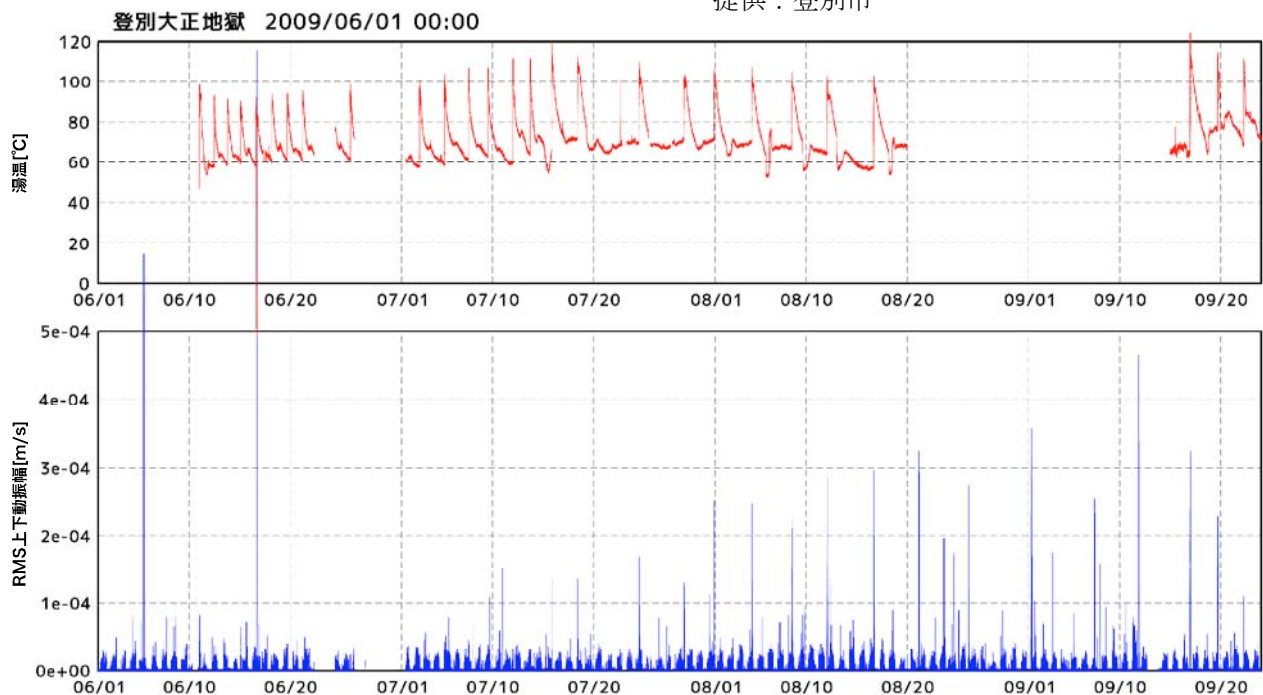


図1. 大正地獄内の熱水温度(赤)と一秒ごとのRMS上下動地動振幅(青)の2009年6月1日から9月23日までの時間変化. 温度計設置深度は満水面下約8mである.

(大島・前川・我孫子)

倶多楽火山